第2回　共同輸配送促進に向けたマッチングの仕組みに関する検討会
議事概要

１　日時
平成27年11月04日（水）13：30～15：10

２　場所
虎ノ門法経ホール

３　議事概要
１．事務局より、本年度の試行実験と検証用マッチングシステムの内容、及び、運営組織の特性について資料を説明。

２．委員からは全体を通じ、以下のような発言があった。

〇試行実験の評価においては、次に繋げるためにどういう因果関係でマッチング率が高まるかを分析することが重要である。長い期間、多くの人に集まってもらい実験を行うことでかなりのデータが集まるはずなので、ぜひ分析して頂きたい。

〇マッチングする上で貨物・物流情報の登録が少ないと利活用度が下がる。情報登録を増やすため、試行実験に参加する企業が保有する事業所をきちんと登録することが重要であり、それら事業所による情報の登録を促すべきである。

〇業界によって物量のピーク／オフピークが異なる。一部の業界に偏ると年始年末に物流がストップするため、その間は情報登録がなくマッチングが進まない懸念がある。また、食品業界では冷凍設備を保有する車両が必要であるが、今回参加している物流企業はそうした車両を保有していない企業が多いと感じる。常温輸送だけでは実験でマッチングする候補の幅が非常に狭くなる可能性がある。マッチングを促進するためには、この2つの課題を解決することが重要である。

〇今回、物流センサスの情報を元に地域別の物流量を分析し、マッチングの可能性の高い地域で企業を募集しているので、試行実験に参加する企業のエリアでの物流量を把握しておいた方が良い。その際、企業の本社所在地と物流量の大きな工場・事業所は別であるので、データを扱う際には注意が

必要である。また、CO2排出量を算定する際に活用する改良トンキロ法は、空車で積載率0%の状態では使用できないので、その活用の際は注意頂きたい。

○今回の実験は長丁場なので、途中でモニタリングを行い、状況を委員に情報共有し、委員からの意見により、システムの改善点の検討や軌道修正をしていく形を維持したい。また、参加する企業数が増えれば、組み合わせの選択肢は倍以上に増加すると考える。参加企業の増加策をぜひ進めて頂きたい。

以上

（文責　事務局）